

告 辞

卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

皆さんは、中学校課程を無事に終えられ、栄えある卒業証書を手に入れました。これは、皆さんが今日まで勉学や心身の鍛錬に励まれた賜物であり、喜びもひとしおのことと思います。

さて、本日は「平和大使」と呼ばれる高校生たちを紹介します。

彼らの活動は、26年前、被爆地長崎に住む2人の高校生が、核兵器廃絶を求める署名を国連に届けたことから始まりました。毎年新たな若者に引き継がれながら、世界中で平和の尊さを訴え続けています。

しかし、ここまでの道のりは、決して平坦なものではありませんでした。仲間と意見がぶつかることへの苛立ち。「子どもに何が分かるのか。」という大人の心無い声。何よりも争いが絶えない世界の現状に、悔しさを覚え、自分たちの力の弱さに打ちひしがれます。

それでも、祖父母から受け継いだ戦争の悲しみ、教訓、平和への願いを周りの人々に伝え、立ち向かうことこそ、自分たちの役割だという強い思いが、彼らを奮い立たせました。

その中で生まれた言葉が「微力だけど無力じゃない」。この言葉を信念として、ひたむきに署名活動が続けた結果、ともに取り組む仲間が徐々に増えていきます。活動開始から14年という長い時を経て、継続的な活動が、世界にも広く知れ渡り、公式の使節団として、国に認められるまでになったのです。

昨年、日本の団体が受賞したノーベル平和賞の授賞式においても、高校生平和大使が注目を集めました。そして、現地の若い世代と交流し、次のように語ります。

「高校生の私には今すぐ世界を変える力はありません。だからといって、私たちに力がないわけではありません。たとえ、一人ひとりの力が小さくても、私たちが一体となった時には、世界平和を実現できる大きな力につながっていくことでしょう。」

これから皆さんは、それぞれの道を歩んでいきます。誰もが幸せな未来をつくっていくために、一人ひとりが、できることを考えてください。時には、自分一人だけの力に限界を感じることもあるでしょう。しかし、自ら行動を続けていけば、仲間の思いが重なり合い、大きな力につながるはずです。「微力だけど無力じゃない」。この言葉を胸に、新たな一步を踏み出してください。

最後になりましたが、校長先生をはじめ、諸先生方、数々の御支援をいただきました、保護者の皆様や地域の皆様、関係の方々に、深く感謝申し上げますとともに、卒業生の皆さんが、健やかに成長されることを心からお祈りしまして、告辞といたします。

令和7年3月6日

鈴鹿市教育委員会